

生徒・保護者の皆さんへ

情報ネットワーク時代に気をつけたいこと

今日も生徒たちは授業で1人1人がタブレットを操って調べ学習をしていました。そんな様子を見ると、私(校長)が教師になりたての頃からは想像もできないと、いつも思ってしまいます。

今や中学生にとってもパソコンやスマホなどの情報端末はなくてはならないものとなりました。学習の道具としたり、ゲームをしたり、音楽を聴いたり、友達とのコミュニケーションに使ったりと、利用しない日はないという人も多いと思います。

しかし、メリットが多い反面、ネット依存症(ゲーム障害)、ネットいじめ、^{とくしゅさぎ}特殊詐欺や出会い系といった犯罪被害など、中学生がトラブルに巻き込まれる恐れがあることも事実です。今回は、学校と家庭が連携して子どもの安全を守るため、総務省が発行している「インターネットトラブル事例集」からいくつかの事例を紹介したいと思います。



事例① メッセージアプリでの悪口・仲間外れ

うっかり「？」をつけ忘れたために



Cさんは仲良しグループのトーク画面で、メッセージの最後に「？」をつけ忘れたまま送信してしまったことに気づかず、すぐにお風呂に入ってしまった。

一方的にグループから外されてしまった



お風呂上りにスマホを見ると、「ひどい！」などのメッセージが。誤解を解こうとしても、反応なし。Cさん以外のメンバーは別グループを作り、Cさんを外したのです。

いわゆる“SNSいじめ”です。1人の子を多数で追い詰める、発言を無視する、グループから外すなどに加え、「ステメ」(ステータスメッセージ)を悪用した嫌がらせも起きています。これらは、人目につきにくく発見が遅れがち。保護者等が日々の様子や会話から変化・違和感を察することが早期発見・解決のカギになります。気になった画面はスクリーンショット等に残し、ご相談ください。

【裏面もご覧ください。】

事例② 投稿から個人が特定されたことによる被害

おいしい情報をシェアするつもりが



よく行くショッピングタウンでお気に入りのお店を見つけたPさん。親しい人たちに教えてあげようと、**位置情報オフで撮影した写真を投稿**しました。

知らない人に付きまとわれるようになった



その後、誰かに後をつけられていることに気づきました。引き金は、Pさんが投稿した**写真の背景。場所がわかり生活範囲が特定**されてしまいました。

子ども・若者は、SNSなどを利用する際の個人情報の取扱いにルーズな傾向があります。うかつにネットにあげた情報がいつのまにか全世界に拡散してしまう恐れがあります。そのため、①友達どうしても個人情報（学級名簿、学級写真なども）は安易に答えない・回さない。②ネットで少し話して登録した友達は、タイムラインを非公開にする。③非公開で得た情報は勝手に再投稿やスクリーンショットしない、ことに気をつけましょう。

次号でも他の事例を紹介します。

保健体育における水泳の授業について

先月の四日市市教育委員会から文書のとおり、今年度は本校でも6月21日（月）から水泳の授業を実施します。市教育委員会からの説明のほか、以下のように感染症対策を行って実施しますが、ご不明な点がございましたらご相談ください。

- ① 更衣室での密集を避けるため、男子は武道場で着替えます。女子は更衣室（2部屋）を使用しますが、少人数で何度か入れ替えて使用します。（通常より着替えに時間がかかると考えています。）
- ② プールでの密集を避けるために、男子、女子が別々に水泳の授業を行います。したがって、例年は10回程度プールに入っていますが、今年度はその半分以下になります。（例えば、あるクラスの男子がプールで授業をした場合、同じクラスの女子は教室で水泳の座学をしたり、運動場などで他の運動の授業を行います。）
- ③ 着替えのときや、更衣室からプールサイドまでの間は、マスクを着用します。プールに入るときにマスクをはずしますが、濡れないように学校でジップロックを購入し、そこに各自マスクを入れます。ジップロックはフェンスに洗濯ばさみ等でつけますので、ご家庭から洗濯ばさみを持たせてください。